英語スピーキングにおける方略的能力測定に向けたタスクナビゲーションシステムの開発
－既習事項の活用に焦点を当てて－

Development of a Task Navigation System for Strategic Competence Assessment in English-speaking
-Focus on utilization of previously learned English knowledge-

仲谷 佳恵[*1], 吉川 遼[*2], 室田 真男[*1]
Kae NAKAYA[*1], Ryo YOSHIKAWA[*2], Masao MUROTA[*1]
[*1] 東京工業大学
[*1]Tokyo Institute of Technology
[*2] 名古屋文理大学
[*2]Nagoya Bunri University
Email: knakaya@citl.titech.ac.jp

あらまし：著者らは，英語スピーキングの方略的能力測定を最終目標に，言うべき内容を表現するための(a)置き換え，(b)説明の追加，(c)メッセージの再構成に焦点を当て，これらの使用が求められるスピーキングタスクを設計した．本研究では，学習者が各自でタスクを実施でき，教員は学習者の実施状況を随時確認できる Web ベースのナビゲーションシステムを開発した．本稿ではシステムの要件と概要を説明し，今後の課題を述べる．
キーワード：スピーキング能力，方略的能力，Computer Assisted Language Learning，タスク中心言語教育

1. はじめに

国際化が進む中での英語教育は，学んだ知識の正確な再生だけでなく，自身の考えについて英語で話すために「ある意味を表す言語表現が即座に頭に思い浮かばないような場合に，別な遠回しな表現をしたり（中略）自分の言語知識の足りないところを埋め合わせ」ながら話せる能力 (1) も重要である．こうした能力は方略的能力として定義されている (2)．

方略的能力を測定する方法は，インタビューによる観察，スピーキングを行った後の意図の調査，質問紙調査などがあるが，(1) 方略の使用の有無を観察出来るとは限らない，(2) 特に意図調査等は教育現場で学習者全員に実施するには現実的ではないといった課題が存在する．正確な測定にはそれらを組み合わせることが望ましい (3) とされているが，実際の教育現場で実施するのは難しい．

こうした課題を背景に，著者らは方略的能力測定を最終的な目標に，(1) の課題解決として，「ある意味を表す言語表現が即座に頭に思い浮かばない」状況を擬似的に作り出し，方略を使用しなければ達成することが困難であるスピーキングタスクの設計を行っている．このスピーキングタスクを使った予備実験を通して，全ての学習者が複数の方略を使用しながらスピーキングしていたこと，英語を日常的に使用した経験の有無で使用する方略に違いがある傾向が見出され，本タスクが学習者の方略の使用の有無や段階を観察できる可能性が示唆された (4)．

本稿の目的は，(2) を解決し教育現場での実行可能性を高めるために開発した，本タスクを学習者が単独でブラウザを用いて実施することを可能にしたタスクナビゲーションシステムの概要と展望について報告することである．なお，本研究が想定する学習者は，TOEIC レベル C の基礎的な知識については学習済みの日本人英語学習者である．

2. スピーキングタスクの概要

本研究では，方略的能力の中でも， 既習事項を活用しながら“言うべき内容を表現する”ために発話者が使用する方略として（a）置き換え（類語を使用して表現する），（b）説明の追加（表現したいものの性質を説明する），（c）メッセージの再構成（表現する内容自体を再構成する）の 3 つに焦点を当てた．そして，「(a), (b), (c)の方略を使用する必要が生じる」ようにするために，イラストの内容を英語で説明する際に学習者が使用すると想定される英単語や表現について，『使用せずにそのイラストを説明する』ことを求めるスピーキングタスクを設計した．具体的には，実用英語技能検定の 3 級及び準 2 級の面接の参考書で使用されているイラストの中から，1 枚のイラストで人物の行動等が描写されているものを採用した．そして，イラストの内容を英語で描写する際に多くの学習者が使用すると想定される単語や表現を，模範解答の中からイラスト 1 枚あたり 4，5 個指定し，それらを使用せずにスピーキングすることを求める内容とした．なおイラストについては，出版社から研究利用の許諾を得て使用した．

3. 開発したシステムの概要

2 で述べたスピーキングタスクを教育現場でより

実行可能にするため，下記要件を満たす必要がある．

1. 「方略を使用しなければ達成することが困難である」状況を確実なものにするために，準備時間の制限を設ける
2. 録音作業および録音ファイルの提出作業を効率的にする
3. 教員が各学習者のスピーキングタスク実施状況を容易に随時確認できるようにする

本研究では，上記 3 つの要件を満たすナビゲーションシステムを開発した．UI は学習者がスピーキングタスクを実行するウェブページと，教員がタスク実施状況を確認するウェブページから構成される．各 UI を図 1 及び図 2 に，システム構成図を図 3 に示す．要件を満たすためにタスクナビゲーションシステムには以下の特徴をもたせた．

1 の要件を満たすために，イラストを見ながら準備する時間に制限を設け，制限時間終了後，スピーキングの録音に移行するようにした．

2 の要件を満たすために，ウェブブラウザ上で直接録音できる仕様とした．また，録音終了後は学習者が自身の学年・出席番号・クラスを選択し，氏名を入力することで，それらの情報とタスク番号をファイル名として自動で付与し，サーバに自動送信する仕様とした．

3 の要件を満たすために，学年やクラス等を選択することで各学習者のタスク実施状況を教員が容易に随時確認できるページを作成した．

図 1　スピーキングタスク実行画面

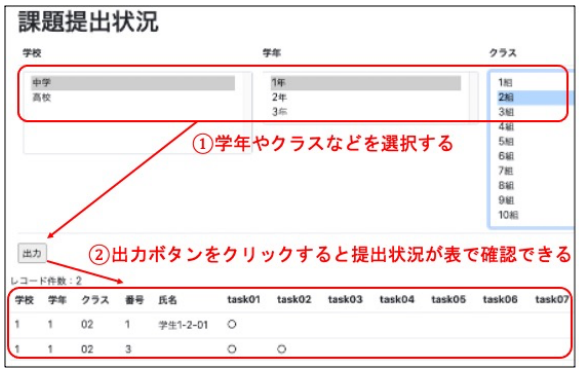

図 2　教員用タスク実施状況確認画面

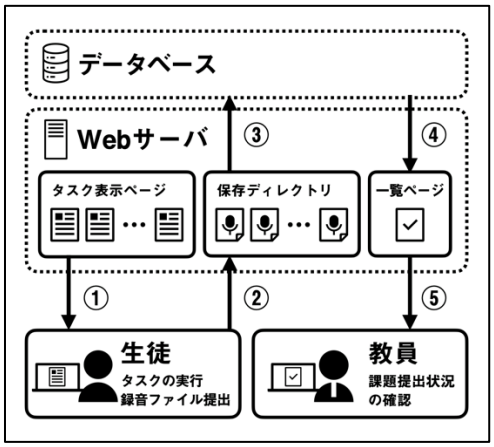

図 3　システム構成図

4.　まとめ

本稿では，「置き換え，説明の追加，メッセージの再構成」の方略の使用をしなければ達成できないスピーキングタスクを学習者が各自で実施でき，教員がその実施状況を確認することを可能にするナビゲーションシステムの概要について述べた．

今後は，教育現場で実際にタスクを実施し，使用した方略の種類と，英語の言語的知識や学習経験などの指標との関連性を分析し，具体的な評価指標の開発を行う予定である．

謝辞

図 1 のイラストは旺文社「10 日でできる！英検準 2 級二次試験・面接完全予想問題（2020 年重版）」より，本稿への掲載について旺文社様より許諾を頂きました．感謝申し上げます．

参考文献

(1) 白畑知彦，冨田祐一，村野井仁，若林茂則: “改訂版英語教育用語辞典”，大修館書店，東京　(2009)
(2) Celce-Murcia, M. et al. : “Communicative Competence: A Pedagogically Motivated Model with Content Specifications”, Applied Linguistics, Vol.6, No.2, pp.5-35 (1995)
(3) 達川奎三:“方略能力研究に関する理論的背景”，広島外国語教育研究, Vol.10, pp.17-33　(2007)
(4) 仲谷佳恵，室田真男: “既習事項活用能力測定方法開発に向けた予備的検討”，日本教育工学会 2021 年春季全国大会講演論文集, 3-S012-1, pp.183-184　(2021)